

明治23（1890）年福岡県三瀬郡間田村、真宗大谷派の末寺、養福寺に生まれる。福岡県立伝習館、第五高等学校を経て、大正4（1915）年7月、東京帝国大学農学部を卒業、明治神宮造営局林苑課勤務。大正6（1917）年より大正9（1920）年まで大阪府立農学校教諭。大正8（1919）年大阪府技師。翌年都市計画地方委員会技師。大正10（1921）年11月より翌年10月まで欧米視察。この間エベネザー・ハワードと肝胆あい照らし、国際田園都市連盟員となる。昭和3（1928）年「都市に於ける児童遊場の研究」で東京帝国大学より、公園計画で最初の農学博士の学位を受ける。

大正から昭和の初めというわが国都市計画の黎明期にあって、公園緑地の必要性をその広範な知識と歯に絹を着せぬ、しかも人を引きつけて止まぬ弁説をもって世に訴え、一日として筆を擱かず諸新聞紙上に、また、「大阪」、「都市問題」、「日本園芸雑誌」、「建築と社会」等々、多方面の数多くの雑誌に執筆し続けた氏の活躍にはまことに目ざましいものがあった。大正10（1921）年、本多静六、田村剛等々、の国立公園制度制定の運動に対して、大阪朝日新聞紙上に、都市内の公園こそ今日拡充すべき緊急の課題であるとして大論戦を展開し、大

いに与論を喚起したのもその1例である。

府立農学校で書き上げた大著「庭園の設計と施工」は、日本及び西洋の庭園の歴史から設計、施工までを極めて明解に、かつ具体的にまとめ上げた名著であり、また昭和5（1930）年その姉妹編として発刊された「公園及運動場」は、公園の計画から設計、施工を初めて体系化したもので、今日なお多くの示唆に富んだ内容をもっている。

大阪府にあって、大阪都市計画の公園計画、風致地区計画をはじめ、箕面公園の拡充、住江公園の整備等、府下の公園計画は勿論、嘱を受けて、松江市の公園計画、長崎の温泉公園計画、岐阜市公園計画等、全国各地の公園計画や具体的公園の設計に携わり、また甲子園運動場並びに住宅地計画等の民間団地計画や紀州根来寺苑改良計画等の社寺苑の設計を手がける等、八面六臂の活躍をしている。昭和10（1935）年、急性盲腸炎で僅か45才の若さで氏を失ったことは斯界にとっての大きな損失であった。

